

人権センターだより

電話 82-0076

ファクス 82-0110

Vol. 140



第5回ふれあい人権講座

映画「アイ・ラブ・ピース」を鑑賞しました

第5回ふれあい人権講座を10月6日、開催しました。今回は「アイ・ラブ・ピース（私は平和を愛する・2003年・日本）」という映画を鑑賞していただきました。

物語は、島根県大田市大森の義肢製作会で義肢装具士を目指して働く聴覚障がいのある女性が主人公です。まだ技術の未熟な彼女が、縁あって紛争地アフガニスタンに渡り、地雷によって片足を失い、心も傷ついた少女と出会います。この出会いによって主人公と少女、お互いが成長していく姿が描かれます。舞台は、緑豊かな島根県大森と、戦禍が深く刻まれた

乾いた岩山と砂漠のアフガン。ストーリーはここでは書けませんが、障がいのある方の人権のこと、様々な勢力が複雑に絡み合った争いに巻き込まれ、戦場とされた国の人々の痛み、苦しみ、哀しみ。いろいろなことを感じる映画でした。2019年には、長年アフガンで水の確保などのNPO活動に尽くされた中村哲医師が銃撃され亡くなりました。まだ紛争は終わりません。私たちもせめて世界のそうした現実から目を背けず、考え続けていなければ、と思います。

参加者の感想から

- ・全ての人の一歩を感じます。
- ・視覚障がいのある方、聴覚障がいのある方と接する事があり、手話サークルのメンバーも観たいと言っていました。Uターンして中村ブレイスさんに出会い大変お世話になっています。今夜また出会うことが出来るとても嬉しかったです。
- ・今、障がいは、その人の特徴とも言われています。島根の子どもたちが、アフガンの少女と自然に接している姿、こだわりを持たずにいること、大切だと思っていました。

2度目の視聴でした。中村ブレイスさんは、中途障がいになり絶望した方を元気づけるため24時間バスケットボール大会を開かれたことがあります。義肢製作所の職員さん、車椅子バスケのチームで活動されている方、バスケの愛好者の方々、たくさん仲間が一人のために集まりました。みんなが車椅子に乗れば、障がいは障がいでなくなりません。今回は、平和の大切さという視点からも考えることが出来ました。

戦争という大きな暴力に傷ついたアフガンの人々と連帯できるのは暴力を否定する人達なのではないでしょうか。



聴覚障がいのある義肢装具士の少女と、地雷で片足を失ったアフガンの少女。共に成長して行きます

第6回ふれあい人権講座

映像で学ぶ

「部落差別解消推進法」

平成28年12月施行された「部落差別解消推進法」について、DVDを観ながら学びます。伊田哲朗人権教育サポーターが解説いたします。

部落差別の解消を目的とした法律が、長い空白期間を経て再び制定された現状を捉えなおします。

日時 11月10日（火）

午後6時～7時30分

会場 日南町人権センター

11月の人権相談・行政相談

日時 11月13日（金）

午前9時～12時

会場 子育て支援センター

☆事前の予約は不要です。

秘密は固く守られますのでお気軽にお越しください。

人権コラム

町ホームページ掲載中

町HPトップ↓課・組織からさがす↓総務課↓人権センター内です

